

ポイ捨てカンをカンがえる

こんなこと



△植木の中にもたくさん入っています

国一バイパスの富士東出口（今井）の北側で、新幹線高架下の信



宇佐美主査(右)と花崎技師(左)

号は、市内有数の空き缶散乱現場。だれでも自分の庭なら捨てないだろうに。マナーの悪さは残念です。掃除しても捨てられるという、イタチごっこ。結局は税金をむだに使うことになると思うのですが」と、市・道路維持課の担当者宇佐美鉄夫主査と花崎忍技師は、言います。

大部分が信号待ちの間、運転席から捨てられたもの。中央分離帯の植木にねじ込まれるように捨てられている様は、だれでも心が痛むはずです。残念なことに同様な現場がほかにも幾つかあります。

証言1

自分の庭なら捨てますか

「プチッ、ゴク、ゴク、ゴク……」

暑いときの缶ジュース、缶ビールは、この上なくおいしいものです。でも、ちよっと待った。飲んだ後、あなたはその缶をどうしますか。最近、何げなくポイツと捨てる人がふえ、空き缶だらけになっている場所がたくさん見うけられます。

今回は、空き缶の多い場所を皆さんに紹介し、空き缶問題を考えてみたいと思います。



△空き缶を集めれば資源に

あなたはしませんよね

△六月の環境週間行事から



証言2

田んぼはごみ捨て場

じゃない



遠藤勝巳さん (田端・農業)

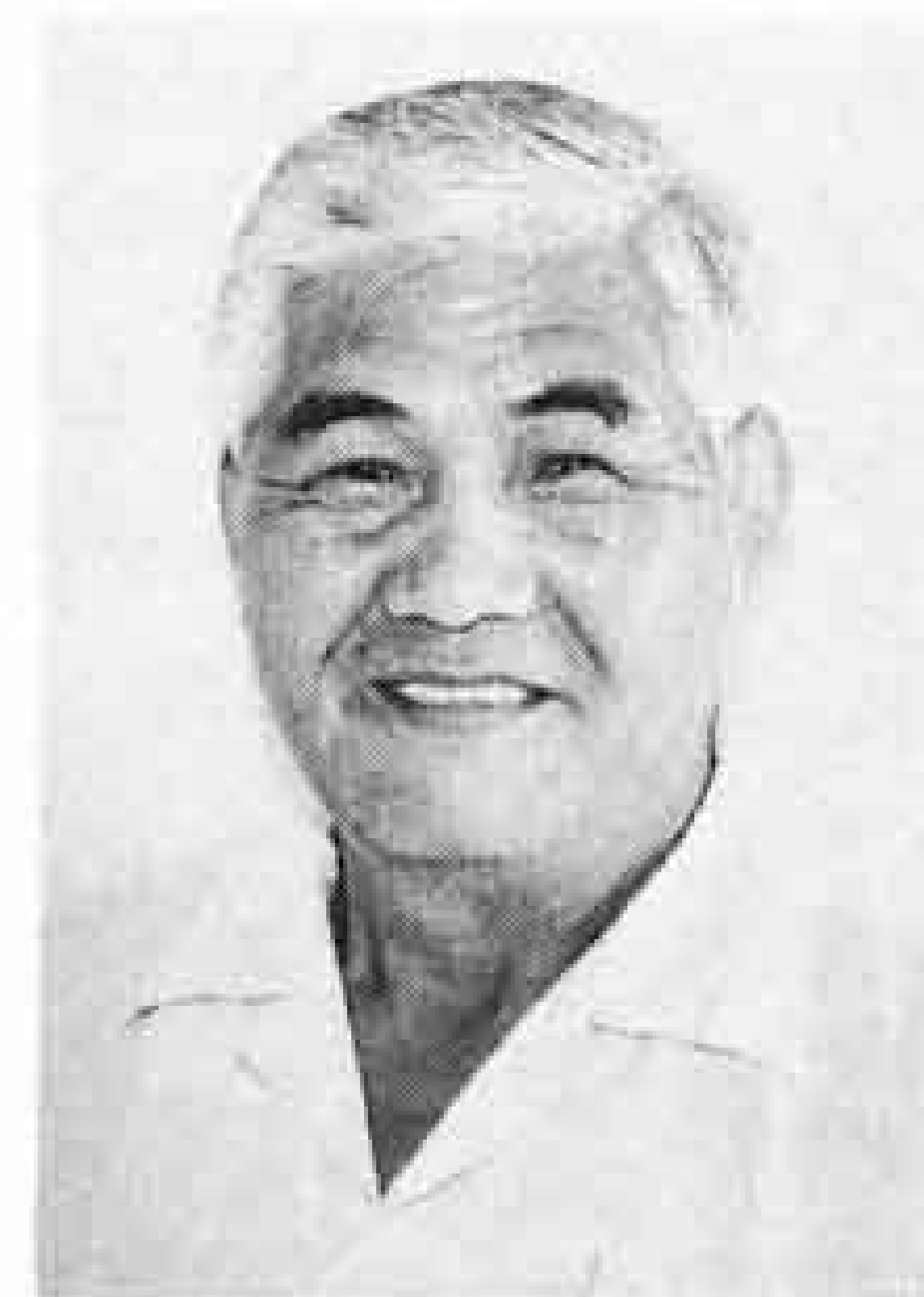
「うちの田んぼは伝法・中桁の東名ガード近くにありますが。ちょうど、東名のガードをくぐると家がなくなるせいか、たくさん空き缶が捨てられています。十日に一回拾いますが、肥料の袋に二袋分くらいはあるよ。缶がふえたのは自動販売機がふえた時分ころからだね。時々、ビンも捨てられていることを思うと、まだまじだけども田んぼはごみ捨て場じゃないよ」と声を大にして言うのは、遠藤勝巳さん。

田んぼの早苗は、缶をぶつけられて泣いているようでした。



証言3

ごみは海へたまる



渡辺一雄さん (田子の浦漁協組合長)

捨てられたごみは、流れ流れて海にたどり着きます。田子の浦漁業協同組合長渡辺一雄さんの話。「雨の降った翌日、田子の浦漁港を見に来てほしいね。缶は港の下に沈み、水上は草・ビニール袋・発泡スチロールなどいっぱい。川や道に捨てられた物が、目の前から消えたらきれいになったと思っはは大間違い。みんな海にたまっていくね。新浜の入道水門沖あたりで、シラス漁をすると、ごみを取っているのかシラスを取って

いるのかわからないよ。その時のシラスは売り物にならないね」と切実な問題。

一人一人が捨てない

五月二十日、市内一斉に平成二年度第一回目の市民美化運動が行われました。

この日拾われた空き缶は、市内で約五万八千個。多くの人の手を煩わしました。

一体どうしたらポイ捨て缶が減るのでしょうか。答は簡単、でも実行が結構難しい。「一人一人が捨てない」ことです。

「富士市は生産力が高いが、住んでいる人のマナーは最低」なんて言われたのでは、市民だれもが心外。市民憲章にも「富士山のよう美しく、自然を愛しきれいな環境をつくりまします」とあります。富士山の美しさに負けない街づくりを実践しようではありませんか。

生産者・販売者も回収を考えるべきでは



藤澤敏恵さん (伝法2・主婦)

「空き缶は持ち帰りましょう」と言いますが、果たしてそれだけで空き缶が減るのでしょうか。自動販売機があちこちにたくさん置いてある現状では、なかなか難しいことだと思います。

私は、自動販売機をつける人にもそれなりに協力してもらわなければ意味がないと思います。

また、メーカーも生産するだけでなく、空き缶の回収をリサイクルの視点から考えるべきではないでしょうか。